

1月1日(月)四方拝の祈りの会

参加者全員の入室予定 → 5時6分

《スライド1枚目を表示（始まりのスライド）→音楽(越天樂)再生》

始めの挨拶 → 5時10分

プログラム開始 → 5時20分

《音楽が終わったら画面共有を停止 → 停止後に2ページ目を開いて準備しておく》

<5:10> 斎藤：皆様、元日早朝よりご参加いただきまして、まことに有り難うございます。そして、明けましておめでとうございます。今年もまた一年、よろしくお願ひ申し上げます。ただ今より、2024年度、最初のズーム祈りの会を始めます。

さて、振り返りますと、2022年の12月24日、土曜日に行なわれた『動画による祈りの会』において私達は、「2025年に、日本が世界平和の中心の働きを担う国として、世界から認められるようになる。そして、“日本に行きたい”、“一生に一回は富士聖地に行ってみたい”と、世界中の人々から思われるような時代になる」という趣旨の、五井先生からのメッセージを初めて伺いました。

それ以降このお話は折にふれて伝えられ、私達の心はすでに、そのように変わった世界を生きております。どうしてそうなっているのかと申しますと、あれから一年間、私達はそれぞれに、果因説の原理を活用して、自分自身の想念・言動行為に、神聖復活した姿を顕わし続けるべく、コツコツと地道に練習しつづけてきたからであります。

今の私達の精神状態は、すでに大調和を旨とした『大和(やまと)の心』を顕わし、日本人本来の生き方を取り戻しております。私達はそのように、一足早く2025年以降の世界を生きる日本人像を顕わしながら生きています。

前から見ても後ろから観ても、上から観ても下から観ても、外側から観ても内側から観ても、どこからどう観ても、現在の私達は神聖そのものの存在になりました。今ここにおられる皆様の生き様は、すでに全人類の見本となり、いのちの光をすこやかに放ちながら、今ここに存在しておられます。

神聖復活の印を組む人々や、世界の平和を寝ても覚めても祈り続けている人々は、それぞれが持つ自己の性格を抱きしめながら長所を伸ばし、育ててきたことで、いつの間にか短所も神聖の光で淨まり、そこに居て、ただ呼吸を通して存在しているだけで、太陽のように世界を照らし続けるまでに、自らを磨き高め上げてまいりました。

《画面共有再開 → スライド2枚目を表示（プログラムの概要画面）》

本日はそのようにして、光り輝くに至った私達の心と体を使いまして、天皇陛下により執り行われます年中最初の宮中祭祀(きゅうちゅうさいし)・『四方拝』を、陰ながらお支えする祈りの会を執り行わせていただきます。

陛下におかれましては、本日午前 5 時 30 分より、皇居・神嘉殿(しんかでん)南庭(なんてい)の仮屋にて、天地四方の神祇(じんぎ)を挙し、今年一年の日本と世界の年災消滅・五穀豊穰をお祈りくださいます。

私達も本日、天皇陛下と時間を合わせまして、謹(つつし)み畏(かしこ)みつつ、同じ項目のお祈りをさせていただくことを通しまして、日本の安寧と世界の完全平和・人類の神聖復活を、陰ながら力強く後押ししてまいりたいと存じます。

なお、皇居で行なわれます『四方拝』は、先ほど申し上げましたように、午前 5 時 30 分から執り行われますが、私共の祈りの会は宮中儀式よりも多少長くなりますので、少し早めて 5 時 20 分から始めさせていただき、5 時 45 分頃に終わる予定になっております。

それにより、『四方拝』の 10 項目へのお祈りは、5 時半少し前から 5 時 40 分くらいの間で行えるようになり、皇居で執り行われている陛下の御神事と時間を合わせ、ほぼ同時刻にお祈りすることができます。

そのように時間を合わせてお祈りするために、本日の各項目における宣言の言葉は、【日本語で一回のみ】の宣言といたしますので、すべてのお祈りの際には、「はい」という合図で、画面の文字を見ながらご一緒に唱えください。

なお、四方拝で陛下がお祈りなさる 10 項目の内容につきましては、各項目をお読みいただくことで、おおよそをご理解いただけると思いますが、3 項目めの「神武天皇陵への祈り」について、「なぜ特定の天皇のお墓へ?」と思われる方がおられるかも知れませんので、お祈りの文言に「初代」という言葉を加え、「初代神武天皇への祈り」であることを明らかにさせていただきました。

もう一つは、4 項目めのお祈りで、「明治天皇・大正天皇・昭和天皇」とありますが、これは、お祈りの項目が「先帝三代の陵への祈り」であるからです。

そこに「平成天皇」の御名(ぎよめい)がない理由は、平成天皇はまだご健在であられるためですので、平成天皇への感謝は今回の項目にはありませんが、もしお祈りなさりたい方がおられましたら、「先帝三代の陵への祈り」の際に、心の中で加えて共にお祈りくださいますようお願ひいたします。

ここから先の司会は、仲道さんにお願いします。仲道さん、よろしくお願ひします。

以上